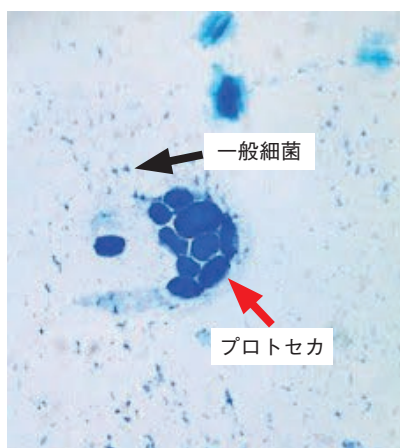


藻の乳房炎

乳房炎の原因となる微生物は細菌、真菌（カビ）、近年問題になっているマイコプラズマなどいろいろありますが、今回は藻による乳房炎についてご紹介します。



プロトセカ（赤矢印）と一般細菌（黒矢印）の顕微鏡写真

藻の乳房炎は、プロトセカ（*Prototheca zopfii*）という藻類に感染することによって発生する環境性乳房炎です。プロトセカはさまざま

な環境に広く分布する藻類ですが、特に池や水たまりなどの湿った環境に多く存在します。特徴としては、一般的な乳房炎原因菌と異なり、ほとんどの抗生物質や消毒剤に対して抵抗性が強いことがあげられます。また、プロトセカ乳房炎の発生はまれですが、一軒の農場で連続して発生することがあります。

症状について

臨床型のプロトセカ乳房炎の症状は、乳房の著しい硬結やブツなどで、搾乳困難となり泌乳停止になることもあります。また、真菌（カビ）の乳房炎のように、乳房炎軟膏を注入すると悪化することもあるようです。一方、発熱などの全身症状はほとんどみられません。

潜在性乳房炎となることも多く、この場合ブツなど乳汁の肉眼的な変化や乳房の異常を示しません。また、常に体細胞数が高いわけではなく、乳汁を培養してもプロトセカが検出されない場合があります。

治療方法

ほとんどの抗生物質に感受性をもたないため、治療は困難です。また、頻回搾乳などで一時的に症状が改善しても、乳房内に病巣が残ることがあるため再発する場合も多いです。さらに、感染牛は乳汁や糞便中にプロトセカを排出するので、環境を汚染することもあります。そのため、感染乳房が1分房や2分房の場合は盲乳処置、それ以上の場合には淘汰を検討する必要があります。

予防方法

このように治療は困難なため、予防が重要になります。プロトセカは水まわりに多く存在するので、水まわりの環境対策が必要です。

- ウオーターカップ、水槽、配管やタンクなどを清潔に保ちましょう。
- 健康な牛の糞便にもプロトセカが含まれていることがあります。
- 飲み水や搾乳システムの洗浄には水道水を使い、地下水の使用は控えましょう。

- 放牧地、パドックや牛道にいつも水たまりや池になっているところは

ありませんか？プロトセカはこのような場所に特に多く生息するので、水たまりができないような環境整備が必要です。

また他の乳房炎と同様に、プロトセカ乳房炎の予防にも搾乳手技が重要です。特に乳頭が傷んでいたたり、乳頭清拭が不十分だと感染しやすくなります。

このような特徴をもつ乳房炎ですが、初診時の検査で他の細菌が検出されていても、二回目の検査でプロトセカが検出されることもあります。普段と何か違う乳房炎だなと感じたり、何かご不明な点がありましたら、お近くの家畜診療所にご相談ください。

（姉別家畜診療所診療課 山田 倫明）